



—第26号—

地域・だいがく連携通信 —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL : 078-803-5391
FAX : 078-803-5389
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

「地域づくりの基礎知識シリーズ」全5冊が刊行しました！

平成27年度に地方創生に関する文部科学省の事業として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が公募され、兵庫県では、本学が中心となって申請した「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」が採択されました。

本事業の成果の大きな柱として、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の5つの領域ごとに、地域課題や地域づくりについて学ぶための、初学者向けテキストである「地域づくりの基礎知識」シリーズを作成・編集してきました。

本シリーズは、神戸大学・兵庫県立大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学のCOC+事業に参加する大学が、地域住民や自治体、企業などと協力しながら展開してきた取組を集約し、これまでの地域志向型教育・研究の成果を活かしたものとなっています。また5つの領域が設定するテーマを体系的に配置することで、初学者や地域づくりに実際に携わる方々にも分かりやすいように構成しています。授業や各フィールドで本テキストを活用することにより、読者にとってさらに深く地域社会を理解するための良きガイドとなるよう目指しています。

既刊の『地域歴史遺産と現代社会』・『子育て支援と高齢者福祉』・『農業・農村の資源とマネジメント』・『災害から一人ひとりを守る』に加えて、事業最終年度である本年度は、5冊目の『働き方とイノベーション』を令和2年3月に神戸大学出版会より刊行いたしました。



灘区 大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成報告会＆交流会

令和2年2月9日（日）、灘区役所で令和元年度「灘区大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成報告会＆交流会」が行われました。この事業は、地域の課題解決および魅力の向上を目的とした公募事業で、神戸大学からも4件の事業が採択され、支援を受けています。当日は、神戸大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸海星女子学院大学の各団体から活動報告がありました。続いてパネルディスカッション、交流会があり、参加者同士で盛んな交流が広がられました。



活動報告の準備



学生による発表

見て歩き会一ひょうごの歴史、住宅、生活…地元を歩きましょう

安心安全な地域社会を考えるに際し、学生、教職員、市民が専門家と地域を歩きながら歴史、社会を学ぶ「見て歩き会」を英語と日本語で実施しました。

令和元年 11 月 17 日に神戸市長田区において、阪神・淡路大震災後に震災復興事業の再開発や商店街、土地区画整理事業が実施された地区、阪神・淡路大震災の被害は免れるも南海トラフ巨大地震に備えて津波避難訓練を実施している地区、アジア系外国人が集まるコミュニティエリアなど、地元住民の皆さんに協力を受け、多様な視点からまちの現在を学びました。（参加人数 約 30 名）



神戸市長田区被災地住民との交流の様子

【参加学生の声】街を歩きながら阪神・淡路大震災後の整然とした街並み、防災公園などの公共施設目の前にして、安全・安心かつアクセスしやすい街区だと感じました。一部に古い建物や市場がまだ残っていて昔ながらの現場も体験できて良かったです。

歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催

第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会が、令和2年2月2日（日）に瀧川記念学術交流会館で、86名の参加を得て、開かれました。今年度のテーマは、「地域歴史遺産を未来につなぐために－阪神・淡路大震災と、地域の取り組みから考える－」。第1部で神戸市東灘区と丹波篠山市での市民による活動の報告のあと、午後からテーマに沿って「阪神・淡路大震災を残すために」「阪神・淡路大震災の記憶を歴史としてつなぐために」「地域の記憶をつなぐために－香美町無住化集落の場合」「地域の歴史を伝える－中学校と連携して」の報告、コメントがあり、その後会場との意見交換が行われました。

1995年1月におこった阪神・淡路大震災では、被災した歴史資料の救出とともに、早い時期から震災についての記録や資料を保存する活動が行われました。被災地でおこった出来事を、地域や時を越えて伝えたいとの思いからでした。これらの資料は、その時を語るものとして保存され、今なお資料の提供も続いています。25年の年月を経て、震災を知らない世代に、あの災害をどう伝えていくのか模索が続いています。

また、近年各地で、災害に限らず過疎化や高齢化に伴い、地域の記憶や記録の継承が困難となる状況が生まれています。これまで地域で守ってきた地域の歴史遺産や記憶を次世代にどのように引き継いでいくのか、取り組まなければならない課題が多いのが実情です。

このように、阪神・淡路大震災以降の被災地での 25 年間の取り組みと、地域の歴史を後世に引き継いでいくための香美町・香寺町での活動には、共通の課題があり、それらを克服するためにどうすればいいのか、参加者との間で活発な質問や議論が交わされました。



協議会の様子



協議会の様子

[illegible]

令和元年度 保健学研究科地域連携センター報告会の開催

保健学研究科地域連携センターでは、年に1度その活動を報告する機会を設けています。15回目をむかえる今年度の報告会は、令和2年1月25日（土）にラッセホール（神戸市中央区）で開催し、23名のご参加をいただきました。

報告会の第1部は、神戸市発達障害者支援センターとの連携事業についてです。神戸大学は、神戸市と平成25年に連携協定を締結しており、発達障害者支援センターとの協働もこの協定に基づいています。今回、大学と支援センターとの両方の立場から、①地域支援教室、②児童発達支援事業書等巡回支援事業、③相談事業・居場所づくりなどの取組みの現状、成果や課題について報告がありました。いずれの事業も着実に成果をあげてきているのですが、ニーズや福祉サービスは変化しており、それにあわせて取組みを行うようになってきている様子も報告されました。

第2部では、地域高齢者・認知症の方とご家族への支援事業、子宮頸癌検診啓蒙活動の現状と課題、産後女性の健康問題～マイナートラブルに着目して、須磨地域在住高齢者との関わりなど、各地域についての取組を、学生の報告も交えて行われました。



品田裕理事・副学長による開会挨拶



「未来の団地×IT アイデアソン」の開催～神戸大学×UR×NTT データ

令和元年10月22日（火）、滝川記念学術交流会館産学官連携による取り組みとして、神戸大学、UR都市機構及びNTTデータの三者共催により、「未来の団地×IT アイデアソン」を開催しました。

18名の参加者がUR賃貸住宅団地における課題に対し、NTTデータが持つITソリューションや最新技術の知見を参考に、斬新で柔軟な発想で未来の団地の仕組みを考え、ITを活用したアイデアを出し合い、4グループに分かれてプレゼンテーションを行いました。アイデアソン終了後は懇親会を行い、参加学生、UR職員、NTTデータ社員及び大学教職員との間で活発な交流が広がられました。参加した学生からは「地域が抱える問題について、ディスカッションする場が持てて、とても有意義な時間だった。」といった感想が聞かれました。



グループでアイデアを考える



グループごとにアイデアを発表

大分県中津市との連携事業

平成28年4月22日に神戸大学は大分県中津市と連携協定を締結しました。中津市は本学の前身である神戸高等商業学校初代校長の水島鐵也先生生誕の地です。協定締結後、中津市と本学との間では複数の連携事業が展開しています。

■大分県立中津東高校での出前講義

令和元年11月15日(金)、大分県立中津東高校にて、システム情報学研究科の大川剛直教授が「スマート社会の次に来るもの」と題して出前講義を行いました。AIや5G通信技術などの発展が社会に与える影響や、今後どのような人材が必要とされるかについて講義しました。

生徒からは「先生の講義で将来について深く考えるようになった」「機会による置換が困難な人間相手・クリエイティブなどの分野は人間の強みなので大事にしたいと思った」「今会社で求められているものと将来求められるものを自分で考えることが必要だと思った」などの感想がありました。

出前講義は中津市との連携事業として、今回で4回目の開催となりました。



大川教授による講義



高校生からの質問

■中津市歴史博物館の開館

令和元年11月1日(金)、中津市歴史博物館開館記念式典が行われました。平成4年に開館した中津市歴史民俗資料館は、築80年が経過し老朽化が進んでいたため、中津市の貴重な文化財を調査・研究・収集・活用し未来へ継承する拠点として、新たに中津城の南側に中津市歴史博物館として開館されました。「中津市制施行90周年記念事業」として実施した式典には、奥塚正典市長や栗田英代中津市教育長、高崎章子同館館長、市内の小・中学生、中津市歴史博物館サポーターなど、約130人が出席しました。本学地域連携推進室からは、中津市歴史博物館協議会会長の奥村弘教授(人文学研究科長・地域連携推進室副室長)と地域連携推進室



テープカットの様子



奥村教授からのメッセージ

の松下正和特命准教授が参加しました。奥村教授からは「中津市民の歴史文化に対する関心はとても高い。その中津市民の力を、日本全国に、そして世界へ広げていく試みの中で、中津市歴史博物館がより豊かに発展していけるように一緒に努力をしていきたい」とメッセージを贈りました。

神戸大学 地域連携活動 (令和元年10月～令和2年3月)

10月	3日	(大学)	地域社会形成基礎論(第3クォーター)開講
	7日	(大学)	ひょうご神戸学(第3クォーター)開講
	9日	(大学)	丹波篠山市・神戸大学連携推進協議会
	22日	(大学)	「未来の団地×ITアイデアソン」
11月	1日	(大学)	中津市歴史博物館開館記念式典
	15日	(大学)	大分県中津東高校での出前講義
12月	2日	(大学)	ひょうご神戸学(第4クォーター)開講
	5日	(大学)	地域社会形成基礎論(第4クォーター)開講
1月	25日	(保健)	保健学研究科地域連携センター報告会
2月	2日	(人文)	歴史文化をめぐる地域連携協議会
	28日	(農学)	丹波篠山研究発表会【開催中止】
3月	6日	(大学)	COC+総括シンポジウム【開催中止】
	30日	(大学)	地域づくりの基礎知識シリーズ5「働き方とイノベーション」刊行